

としま

「第73回“社会を明るくする運動”」特別号の構成
1面…作文コンテスト表彰式
1・2・3・4面…作文コンテスト受賞作品

“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

7月9日(日)中央大会「区民のつどい」を開催しました!



作文コンテスト表彰式(小学生の部)



作文コンテスト表彰式(中学生の部)

★ ★ 人と人、心と心をつなぐ社会へ 推進委員長賞

豊成小学校 6年生 長崎 大晴さん



ぼくは読書が好きで、本を読むときにはブックカバーを使っています。ブックカバーの表紙にはこう書いてあります。「人はみな、生かされて生きてゆく。」

ぼくのブックカバーは、受刑者が刑務作業で作ったものです。罪を犯した人が作ったものと聞いて、どのようなものを思い浮かべますか。雑に作られている?適当に作られている?実際に手に取ってみると、とてもいいに作られています。茶色い革の生地には傷ひとつなく、ミシンのぬい目もまっすぐきれいにそろっています。

ぼくは初め、悪い人が作ったものなんてこわいし、使いたくないと思いましたが、しかし、ブックカバーを見ているうちに、疑問がわいてきたのです。こんなにいいものにものを作るのできる人が、なぜ悪いことをしてしまったのか、罪を犯してしまったのか。

同時に、こうも思いました。もし困ったときや悩んだときに身近に話せる人がいて、支え合える社会だったら、悪いことに手を染めることなく、前向きに生活していけたのではないかと。だったら、ぼくは社会を明るくしていきたいと思いました。

明るい社会、ぼくが真っ先に思い浮かべたのは、祖母とお客さんの笑った顔でした。

ぼくの祖母は理容師をしています。青森県で生まれ育った祖母は、うでをみがぐために上京し、もう60年以上髪を切り続けている、現役の理容師です。ぼくは物心ついたときから坊主頭ですが、いつも祖母がバリカンで刈ってくれています。

祖母の理容店はぼくの家目の前にあり、ぼくが学校から帰ってくると「おかえり」といつも声をかけてくれます。お客さんがいないときには、そのままお店に寄って、その日学校であったことを聞いてもらったり、宿題につき合ってもらったりします。

お客さんがいるときには、「いらっしゃいませ。ゆっくりしててください。」と、ぼくからお客さんにあいさつをするようにしています。

ぼくは幼いころから祖母のお店でお客さんと接しているため、知っている人に会ったらあいさつをすることが習慣になりました。初めははにかしさもあったのですが、あいさつをすると気持ちがよく、その瞬間、なんとなく心が通じ合ったような気がして、元氣よくあいさつできるようになりました。

祖母のお店には、いろいろなお客さんがやって来ます。1か月に1回、定期的な髪を切りに来る人、引越して家が遠くなったのにわざわざ車で通ってくる人、何十年もずっと通いつづけている人。もちろん、近所に住んでいる顔なじみの人も来ます。

祖母のところには、当然、髪を切りたい、身だしなみを整えたいという人がやって来ます。でも、そうではない人も結構来ます。

チリンチリンと鳴るドアを開けて、「元気?変わりない?」と、少し言葉を交わしただけで帰って行く人がいます。旅行に行って「良かったら食べて。」とおみやげを持ってきてくれる人がいます。ぼくが赤ちゃんだったころを知っている人は、「もうこんなに大きくなったの。」と、いつも驚いてくれます。ぼくがコンクールで賞をとり、地域の広報紙に名前がのったときには、「これ、お孫さんでしょう。」と、その広報紙を持って朝一番で見せに来てくれた人もいました。

祖母とお客さんが話しているときの顔を見ていると、いつも笑顔で、人と人が、心と心がつながっているように感じるのです。ぼくはこの、人と人を結びつける力、心と心をつなぐ力こそが地域の力であり、重要な力なのではないかと考えました。

今、日本は高齢化社会です。ぼくが住んでいる豊島区は、65歳以上の高齢者が約20%、5人に1人の割合です。そのうち、一人暮らしをしている高齢者は約34%、3人に1人の割合です。今後も高齢化の影響でさらに増加していくことが予想されています。そのような状況だからこそ、地域の力が必要だと思います。

祖母は、年をとっちゃった、転んでケガをしちゃったと、いつもおもしろく話してくれます。いいことばかりじゃなくていい、大事なことは、ささいなことでも大変なことでも、いつでもどこでもだれかと話せることの積み重ねなんだと思います。元気がなかったら声をかけてみる、悩んでいたら話を聞いてみる、困っていたら手伝えることはないか聞いてみる、小学生のぼくにもすぐにできそうなことばかりです。

安心安全で明るい社会にしていけるよう、地域の一員として、自分のできることからひとつずつ取り組んでいきたいです。

★ ★ 「社会のひとりとして」 推進委員長賞

明豊中学校 3年生 兵藤 杏樹さん



中学3年生になり、この作文を書くことも最後になった。

社会を明るくする運動の始まりは、第二次世界大戦終戦から4年後、戦争で家族を失い、戦災孤児となった子ども達を貧困や犯罪から守るために始められた運動だという。両親、親戚等の保護者を失った子どもの数は、約12万3511人にも上った。この運動をきっかけに、これまでに多くの人が、孤独に陥ったり犯罪に巻き込まれてしまう未成年達の問題を知り、取り組み、そして救いになってきたと思う。

私達は、昔も今も、世界中の人々の平和を願い、誰も傷つけない世界を願っている。

しかし、その願いは、実現できてはいない。今も、私達の世界の中で、戦争や犯罪は起きています。大人も、小さな子どもも、一瞬の出来事でかけがえない命が、絶たれてしまうことがある。

そして、自ら命を絶ってしまう方も、いる。絶たれてしまった命の持ち主も「人」であり、その命を絶ってしまった人も、「人」である。

私も「人」であり、あなたも「人」である。すべてが等しく大切な命である。

この悲しい矛盾を、私はどう考えたらよいのだろう。

中学生になった私は、活動の場が広がっていった分、より多くの人の存在を意識するようになったと思う。

その中で、自分と気持ちの合う人に出会うことは、そんなに簡単なことではない気がした。

何気ないことでも、誰かから共感を得るとそれはとても嬉しいことだと感じる。そして一緒にのらだという安心感も得られる。

一方で、共感を得ることができなかったりした時には、不安になり、孤独に感じたりもする。

なぜそう感じるのだろうか。そうか。その人と自分について「比べて」いるからだ。

その人の考えだったり、容姿だったり、成績だったり。とても小さなことから大きなことまで、様々だけれど、比べてしまうとそれまでになかった感情が、生まれるのだ。

「あなたはみんなと違うね。」ある日、友達からの何気ないひと言だったけれど、その言葉に私はどうしようもなく不安になった。

何が違うのだろうか。何がいけないのだろうか。あれか。これか。

みんなと同じになるにはどうしたらよいのだろうかという考えがぐるぐる巡る。あまり何度も経験したくない様な不安感に襲われた。

そして、正解が見つからないまま、小さな石の様な固まりが、心にコロコロと残った。

家族がいて、友達がいて、学校があって、地域があって。それぞれの社会の中でも、日々、比べてしまう時がある。

(今はその時じゃないのに) 相手とタイミングが合わなかったりして考えが合わず、理不尽に思うこともある。

小さな石は、また、コロコロ、と生まれる。悲しいな。つらいな。そんな風に思っても、自分の居場所は簡単には変えることはできない。

そんな時に、「生きづらい」という言葉が目に入った。生きづらい、とは「社会の中に自分の居場所が見つからず、将来への展望が描けない疎外された孤立状態をさす」表現なのだそう。それぞれの社会で暮らしている人も、自分の居場所がないと感じている人は、たくさんいるのではないかと。

心に溜まる小石は孤独感を増し、自分も傷つきながら、時に相手のことも傷つけてしまう。

私達は、生きています。対立、戦争、別れ等、いくつかの悲しい矛盾をこれからも抱えざるを得ないのだと思う。文化や考え方の違い、その人を取り巻く環境や事情によって、どうしても理解し合えなかったり、孤独に陥る時もあるのだと思う。

しかし、どの様な反対の考えを持っていても、それを憎しみに変えてはいけけない。そして、孤独を感じている人へも、誰もがそっと寄り添える社会のひとりでありたい。

挨拶を交わし、相手の心に耳を傾けること、そして、笑顔を保つこと。私はこれらを買いていこうと思う。

どうか、あなたの笑顔も見せてほしい。その笑顔は、誰かの心を優しく照らすだろう。どんな時でも笑顔に溢れた社会に、私は生きていきたい。

出典:法務省 ホームページ 「社会を明るくする運動」について



## 小学生の部

1,190  
作品

## 作文コンテスト受賞作品

## 中学生の部

505  
作品★★  
常任委員長賞

## 困ったときは、お互い様

先日、妻の介護につかれ、その妻を殺してしまった男性に、実刑判決が下ったというニュースを聞きました。他にも同じようなニュースをよく見かけますが、その約2割の動機が、介護・看病づかれであるそうです。

私は、このニュースを見て、とても不思議に思いました。私は、3歳の頃からパレエやスイミングに通っていて、今でも祖母や祖父が送迎づいて来てくれています。そして、いつも会う度に、「元気だった？」と聞いてくれます。毎回くれるパンやスイーツ、旅行好きの祖母の会話。とても楽しいので、介護をしていても苦ではないと思っていました。そして、家族を殺してしまう気持ちも理解できませんでした。

私は介護をしたことがないので、まずは介護する側の人の気持ちを考えてみました。「なぜだろう」と考えたとき、理由の一つとして、私は「誰にも頼れないから」ではないかと思いました。「恥ずかしい」「人に迷惑をかけたくない」「誰に相談したらよいかわからない」インターネットが発達し、離れていても人と人がつながれるようになった現代だからこそ、近くの人と人とのつながりがうすれていることによる問題。その

★★  
優秀賞

## 「人と人がつながり合う社会へ」

池袋本町小学校 6年生 大山 璃衣奈さん



最近、私はロミオとジュリエットの物語を読みました。そのお話は、思いこみが原因で愛する人をなくしてしまった悲しいお話でした。ジュリエットが本当に死んでしまったことを思いこんだロミオは自殺をしてしまったのです。そして、ジュリエットもロミオの亡きがらを見つけ、後を追ひ、思いこみが両者を悲しませる結果になってしまいました。

このお話は、私にとっても心に残るものでした。なぜなら私が習っているバスケットボールの試合でも似たような失敗があったからです。あと1点で試合をひっくり返す大事な場面で、自分の思いこみが原因で、仲間とプレーがかみ合わず、結果的に負けてしまったのです。その時はとても悔しかったし、なみだが勝手にこぼれ落ちました。

★★  
優秀賞

## 挨拶 私達にもできる魔法

富士見台小学校 6年生 若井 蒼生さん



「挨拶ってなんで大切なの？」

道徳の授業で挨拶が取り上げられるときにいつも疑問に思います。だいたいみんなの口から出てくるのは、「マナーだから」「スッキリするから」等々。しかし、私はあまりしっくりこないのです。マナーなら何故マナーになったのか。「スッキリ」するのは何故か。私は挨拶を、信じるのではなく、逆に疑うことから始めてみました。

私達6年生は、今年で卒業するので、時々卒業旅行の話をすることがあります。以前は隣のクラスで、卒業したらディズニーへ行こうという話があったそうです。私や他の同級生は、謎の「人数制限」によって入れませんでした。そのときに深く傷ついた友人がいました。私は、他人についていくよりみんなに「行こう」というほうが好きだし、まだ何ヶ月も後のことだから変更の可能性がかなり高いため、それほどがっかりはしませんでした。だからその時は分かってあげることが難しく、とにかか悲しいのだということしか知ることができませんでした。きっと彼はその時、私とは違い、孤独のどん底で一人置いていかれた気分浸っていたのだと思います。分か

悩みこそが、犯罪を起こす根本の原因ではないかと考えました。最近では、小学校高学年では塾に行っている人も多く、放課後地域と関わる機会がないのも現状だし、私も近所付きあいにおいて、軽薄な部分があります。

どうにかして、地域とのつながりをつくれなにか。そう考え、(皮肉にも)インターネットを使って、「地域 つながり 取り組み」で調べてみました。すると、一つの記事がヒットしました。「SDGsと地域福祉。大学教授が解説する、人と地域が「つながる」インクルーシブな地域共生社会」。インパクトのある見出しの記事を読みはじめました。その記事では、大学教授が「コミュニティカフェ」について紹介していました。「コミュニティカフェ」とは、住民の高齢化や高齢者の孤立や孤独死などの問題を解決するべく、関係づくりや居場所づくり、高齢者の孤立防止などに特化したカフェだそうです。また、私の家の近くにもカフェがあることが分かり、社会が良い方向へ向かっていることを実感しました。

しかし、「コミュニティカフェ」に行きにくい人や、忙しくて行けない人もいるはずです。その人達は、何もしなくてもよい

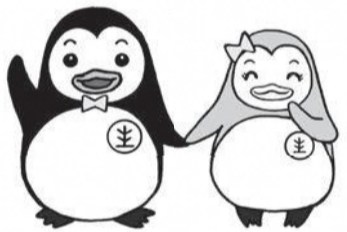
のでしょうか?きっとそれは違うはずです。少しずつできる取り組みとして、あいさつをするべきだと思いました。あいさつには、人を元気にしたり、うれしくしたりできる効果があります。誰かとのつながりを感じられるあいさつを、みんなが取り組むべきだと思いました。

私はこの翌日、早速同じマンションの人にあいさつをしてみました。「おはようございます。」最初の声はとても小さかった。けれど、2人目、3人目とあいさつをしていく度に、どんどん声は出ていきました。慣れると心がすがすがしくして、気持ちよいものとなりました。次の日。私が同じようにあいさつをしていたら、笑顔で返してくれた人がいました。中には話しかけてくれる人もいて、このしゅん間、人とのつながりをしっかりと感じたような気がしました。

介護づかれによって、人を殺めてしまうということは、意外と誰にでも起こりうる犯罪です。だからこそ、誰かに頼ることをみんなが覚えるべきだと思いました。私は、パレエの荷物が高いとき、祖父に持ってもらいます。でも、私は祖母の歩調に合わせて歩きます。世の中には、努力しても報われないこともたくさんあります。けれど、誰かの思いやりは、きつとどこかで返ってくるはずですよ。だから、一人の思いやりで、誰も孤立しない、誰も見捨てない社会になることを願っています。そして、「困ったときはお互い様」の精神を忘れずに、人を思いやり、頼れるようになればいいと思います。

たちは一步一步、歩み寄る勇気が必要だと思えます。そして、自分の意思を伝えることができる人になり、会話のキャッチボールを上手にできるようになることが大切です。そうすればもっと人と人がつながり合う社会になっていくと思います。

最後に、私たち心も大切にすべきだと思います。失敗をおそれることはありません。失敗から学び自分の意思をしっかり持って、伝えることができる人になりましょう。そうすればより良い社会を築くことができ、人と人がつながり合うことができます。



り!」。すると、いつもは当たり前に思えた母の声に、味方になってくれたような心強さを感じました。みんな感じ方が違うから言葉で分かり合うことは難しいけれど、挨拶の声をかけることで相手との関係を再確認することができるのだと思います。

些細なことに思えるかもしれませんが、私はとても重要な意味があると思います。

いつまでもなくならない犯罪。いけないと分かっているも非行へと走ってしまう人はきつと、悩みを一人で抱え続けて、抱え続けて、ずっと抱え続けて、限界という崖に行き着いたときに、一人で抱えられなくなり罪を犯してしまうのでしょう。「生きている意味を見い出せず、大きな事件を起こして死刑になりたかった」という悲しい言葉を残して逮捕されていく人もいます。そこに至るまでに手を差し伸べてあげられるのが「挨拶」なのだと思います。今まではマナーとしてしか思っていなかった挨拶にとっても大きな役割があるのだと考えて分かりました。私達はいつも、犯罪非行がなくなり、取り残される人が消え、社会に光があたることを願っています。そのためにまず自分達にできること。身の回りにいる人に積極的に挨拶の声をかけていくこと。凹もかけて、丁寧に旗のデザインを描きました。投票の当日、頑張った描いた私の作品には一票も来ませんでした。心が凹みました。見捨てられた気がしました。一生懸命描いたものだったから、自信を失いました。絶望の淵にいる気分でした。本当はそれほどのことでもないのに、まるでディズニーに行けなかったあの友人のようない気分です。家に帰りました。「おかけ

★★  
常任委員長賞

## 差別に効く薬

巣鴨北中学校 1年生 後藤 仁さん



差別は感染症よりも恐ろしいものだと思う。なぜなら、感染症に効く薬はあっても差別に効く薬はないからだ。

新型コロナウイルスが流行し始めた頃、母は私に、自分が看護師だということを友達に言わない方が良く、と言った。私はしばらくそのことをずっと疑問に思っていた。人々のために一生懸命頑張っているのになぜ言っていけないのだろうかと思った。ある日、テレビの番組で、医療従事者の人やその人たちの子どもが差別を受けることがあるという事実を知った。保育園に子どもを預けることができなかったり、できたとしても他の子どもの親から避けられるなどのことを、医療従事者だからという理由だけでされていた。幸い、私の周りに医療従事者を非難するような友達はいなかった。だが差別を受けている人のことを思うと胸が痛んだ。この時、私は、私が周りから嫌がらせを受けないよう、母はあのように言っていたのだと理解した。

せきなどをすると、周りに白い目で見られる世の中になってしまった。本来は、周りで体調の悪そうな人がいれば、

★★  
優秀賞

## 生きるための第一歩

西池袋中学校 2年生 岩崎 胡桃さん

みなさんは何かのきっかけで自分を責めてしまうことはありますか。ちょっとした事でもそのままにせず、自分なりの落ちつけ方がある事によって心の安定が保てると私は思っています。

約1年前、連続で自殺のニュースを見た時がありました。そんなニュースを見ながら私は、「なぜ自分の大切な命を自分の手でうばってしまうのだろうか」と自分には考えられない行動を不思議に思っていました。それからしばらくした時、特に何かあったわけでもないのに、今までの自分の行動全てを「あの時こうしていれば」、「なんでできなかったんだろう」、「他の人はできるのになんで自分は行動できないの」と考えるようになった事がありました。あれだけ自分には考えられないと思うために、私は「死にたい」と感じるようになってしまいました。いのちの大切さや、母が産んでくれた大事な

★★  
優秀賞

## あなたは、あなたであればいい

西池袋中学校 2年生 齋藤 夜空さん



悩んだ時に相談できる大人は何人いますか。「あなたはあなたのままでいい」と言ってくれる人が友達や家族、学校の先生、地域の人がいますか。この言葉は日曜討論の子ども・若者政策いま何が必要かの放送回、君の声が聴きたいのコーナーで16歳の子が「大きな目標を抱く事を強要しないでほしい」という意見に、小倉少子化担当大臣が仰っていた言葉で僕は自分の事のように感じて嬉しかった。タブレットで調べた所マザー・テレサの言葉だと知った。3月に母の病気が見つかり、医療ソーシャルワーカーに不安になった時に相談できるので少し気持ちよくなった。僕は内閣府ユース政策モニターや豊島子ども会議に参加していて、政治家や行政の大人は子どもの意見に耳を傾けてくれて涙山心配をしているのは伝わってくるのだが、僕の周りに政治に関心のある子はいないし、大人のメッセージは伝わっていないと感じ、僕は伝えたいと思った。

日本の学校に通う子ども達は幸せなのだろうか?池袋図書館に「外国にルーツをもつ子どもたちの学校生活のウェルビーイング」という本があり野村あすかさんによると、日本の子どもの幸福度は38か国中身体的健康は1位だったのに対して精神的健康は37位と差があると話題になったとあった。どうして差があるのか考えた時に、僕は小2まで埼玉県狭山市の公立小に通い、転居で小3から豊島区の公立小に転校し、2年前僕は6年生で僕の通っていた小

「大丈夫ですか」と声をかけるべきだと思うのだが、今では逆に避けられるようになってしまった。それは、人々の心の中に、人を差別することで自分を守ろうとする意識があるからだと思う。そして、差別とは、人がもつ印象や偏見に原因があるのだと思う。差別をなくすために人々が意識すべき重要なことが私は主に二つあると思う。

一つ目は、一人の人を視点や立場を変えて考えてみることだ。例えば、医療従事者の方々は、たしかに、日々感染者と触れ合っているのかもしれない。しかし、少し視点を変えて見てみると、それは私たちに分からない万全の対策をして接していることである。社会は医療従事者の協力なくして成り立たないということが分かった。そう考えると、自分たちが偏見をもつ理由がなくなる。また人々のために危険を伴いながら仕事をしているのに周りから避けられてしまう人たちの心情も少しずつ分かっていくと思う。そうすることで、また接し方も変わってくるのではないだろうか。

二つ目は、相手のことをより深く知ろうとすることだ。一度悪い

印象がついてしまうと、それはなかなか消えづらい。しかし、ある一面だけを知って人の全てを理解した気になるのは良くないことだと思う。良い面を知っても悪い面を知ってもその情報だけで接し方を決めるのではなく、もっと相手のことを深く知ろうとすることで差別も減っていくと思う。

偏見の恐ろしいところは、やがてじわじわとその人の周りに広がっていくことだ。つまり、その内容が悪い内容だった場合、先程述べた悪い印象をつくるきっかけを自分はずくってしまってもいけないということだ。今まで犯罪を犯してしまった人は大勢いる。その人たちの中では社会に復帰する人がほとんどだろう。しかし、たとえ復帰できたとしても、どんな理由かを分らず、ただ犯罪を犯したという理由で、色々な差別を受けている人はたくさんいると思う。そしてその差別は、また新たな犯罪を生んでしまう。なぜなら、差別は人を孤立させてしまうからだ。再犯をした人は辛い思いをする。その犯罪の被害者も辛い思いをする。このように差別はたくさんの方の不幸をつかってしまう。

私はこの作文を通して差別について考えることがたくさんあった。そして、差別に最も効果的なものは、相手を思う気持ちとあたたかい言葉だと思った。考えた二つのことから分けて、少しでも差別のない明るい社会をつかっていきたいと思った。

経験にピッタリ当てはまるものだなと感じました。もっと言えば、これ以上ごんにも当てはまる経験はないと思います。この経験を通して私が言いたい事は、自分なりの対処法を見つけてほしいという事です。母にも先生にも仲の良い友達にも相談できないし、相談センターのような所に電話するのも勇気がいるし、結局一人で抱え込んでしまう人が多いのではないかと思います。私の場合、今まで学校でも話さない友達にあえて責けんに話そう空気を壊さなくし、今思っている事をネットを通して打ちあけてみる事にしました。その友達は「なぜ」と深く聞こうとせず、「また話したくなったらいつでも言ってね」と、優しく話に付き合ってくれました。その出来事がとても嬉しくて、心が軽くなった気もしました。誰かに話すことだけが解決策ではなく、自分が今聴きたい曲を聴いてみるだけでも、思っているよりもだいぶ楽になると思っています。

この作文が多くの人に読まれることによって、心が少しでも楽になったと感じる人が増える事を私は願っています。最後に、私達は今一度、「いのち」について考えなおすきっかけが必要なのではないのでしょうか。そのきっかけの第一歩がこの作文になりますように。

皆SNSをしていて知らない大人と繋がる事は簡単だ。SNSでは親や先生とは違い甘い言葉を掛けて来て騙して子どもの自殺を手伝う大人がいたり、親や先生から見えないので誹謗中傷を書かれて傷ついている子どもが沢山いて、それにより不登校になった子が出席扱いにならず高校や大学の進学に影響がある場合、子どもは自分の人生に希望を持ってないと思う。

4月に子ども家庭庁が発足して「子ども若者★いけんぐらす」のメンバーを小学1年生から29歳までの人を随時募集している。僕も登録して先日YouTubeでぶらすメンバーの会に参加し、こども家庭庁の職員さんがこども家庭庁が大切にする事を三つ仰っていて一つ目は「こどもの声・子育てをしている人」二つ目は「地方自治体と協力する」三つ目は「NPOや地域の人たちと話し合いをする」事だ。僕は1年間のユース活動を通じて、自分一人で考えていても問題は解決する事はないし、他のユースの意見を聴く事で新たな視点を得られたり、より良い意見が生まれると実感した。こども達からの質問コーナーで「不登校の人も参加してもいいんですか?」との質問に「もちろんです!」と仰っていた。自分の意見を言った所で変わらないでしょと思っている人もいるかもしれないが、素晴らしい意見が通る訳ではないけれど、どういう過程で議論してきたかなどをフィードバックしていくとの事だった。僕は小学生の時立教大学のとしま子ども大学に入っていて、区長とティータムの時に「公園でボール投げができるようにしてほしい」と頼んだ所、素晴らしいボールなら投げてもよい事になり願いが叶って嬉しかった経験から、一人でも多くの子どもが参加すれば幸福度も上がり笑顔で毎日を過ごせる子どもが増え、日本で学べてよかったと思えるようになると思う。





### 思いやりで明るい社会へ

さくら小学校 6年生  
長谷川 采里さん



私は、この社会から思いやりのない行動を減らし、そして、無くしていき、思いやりであふれている社会に「なったらいいな」と思っています。でも、今のままでは思いやりであふれる社会はつくれないと思います。なぜなら、今の社会には、思いやりのない行動や思いやりのない行動をする人がたくさんいるからです。

たとえば、犯罪です。犯罪は思いやりとは正反対な行動だと私は思います。なぜなら、犯罪は関わってしまった人がとてもいやな気持ちになるからです。関係のない人が巻き込まれるのはとてもかわいそうだと思います。犯罪の中でも人の命が失われる「殺人」や、人をだまし裏切る「詐欺」がとてもひどいと思います。なぜ「殺人」がひどいと思うのかというと、人の「命」が最低でも一つ失われるからです。人の命は一人の人間に一つしかないため、一つ命がなくなるということはつまり、一人の人間が死んでしまうということ、それは許されることではないと思ひ、ひどいと思うことの2つに入れました。また、もう一つの「詐欺」は人をだまし、お金をうばったりするところがひどいと思ったからです。私は「詐欺」は度を超えたくそだと思っています。私も、うそをついてしまうことがあります。当たり前のようにうそをつきたくない、他の人にうそをつかれるのもいやです。そのため、人をだまし、何かを取ることはとてもひどいことだと思っています。身内をよそおってだますのが特にひどいと思っています。なぜなら、身内の人とは、ふつうの人より長く過ごしてたくさん信用しているからです。「困っているからお金を貸して」とか言われて、〇〇なら信用できるとお金を貸したら、「実は詐欺でした」なんて、信じてお金を貸したその人がとてもかわいそうだからです。私は高齢者が詐欺の被害にあったというようなニュースを聞いたときにとても心が痛みます。でも、詐欺などの犯罪はいつでも、だれでも、身近にあるということをおぼえてははいけない

と思っています。また、犯罪以外にも思いやりのない行動はまだたくさんあります。たとえば、ポイ捨てや迷惑行為などです。町などでのポイ捨ては落ちているゴミを見たたくさんの方がいやな気持ちになります。また、迷惑行為も他の人をとてもいやな気持ちにします。そのため、どのような場所でもポイ捨てや迷惑行為はしないでください。

私が今まで話した「犯罪」や「ポイ捨て」、「迷惑行為」は思いやりのない行動のことで、これらの思いやりのない行動をなくすことで、いやな気持ちになる人はたしかにいないかもしれませんが、でも、私がつくりたい社会は「思いやりであふれる明るい社会」です。そのためには「思いやりのある行動」をたくさんの方が当たり前にするようになれば、思いやりであふれる社会はつくることができると思います。思いやりのある行動の例は、ボランティア活動です。ボランティア活動には色々な種類がありますが、ほとんどが他の人のためや、よりよい社会のために行っていることです。他の人やよりよい社会のためだと思つくと、とても心が温かくなります。私は電車でおばあさんに優先席をゆずったことがあるのですが、その時に

「ありがとうございます」と一言言われてとてもうれしい気持ちになりました。一言「ありがとうございます」と言われるだけでこんなに違うのかと思いました。

「ありがとうございます」は特別な言葉だと思いました。私は電車やバスの席をゆずるなどの小さなことでも、自分ができる思いやりのある行動をしてほしいと思います。

みんなで協力して思いやりのない行動をなくし、思いやりのある行動を増やしていき、思いやりであふれる社会をつくっていきましょう。



### 医者じゃなくても助けられる命

千登世橋中学校 3年生  
菊池 陽茉莉さん



私は去年の道徳の授業で臓器提供について考える機会があった。私はその授業を通してすごく胸にくるものがあった。それは過去に母と臓器提供の話をしたことを思い出したからだった。

遡ること4年前。私は母の帰りを待ちながら家でのおぼろりしていた。母は帰ってくるとすぐに言った。

「ドナーになってもいい?」私は胸が詰まり頭が熱くなったのを感じた。ドナーといえば臓器、血液、髄液など体の一部を誰かに提供することで、臓器提供について詳しくは知らなかったが大体は想像できた。私は母に言い返すことができなかった首を横に振っていた。母が亡くなった後、母の温もりを感じられないまま臓器提供が行われていたら。会った時、母に臓器がないということが想像できず怖かったからである。

私は今でもこの時に感じた複雑な気持ちを覚えている。去年の臓器提供について考える授業では、自分の気持ちを決め母に返答するきっかけとなった。それは、臓器提供をする側とされる側の立場の気持ちについて考えたからだ。私はこれまで母が臓器提供することに反対をしていたが、この時、私は自分の家族、友達が、もし臓器提供を必要とされた場合、必死に提供してくれる人を探さずらう。そして、また一緒に前と同じような日々を送れることに感動を感じるだろう。そう考えた時、私は母が臓器提供をすることで誰かの命を救うきっかけを与えることができるのならと思ひ返答した。私はこの時から自分も誰かのためにできるのなら亡くなった

時、自分の臓器を渡し命をつなぎたいと思った。

しかし、今の日本では過去の私と同じように臓器提供に対し良い印象がなかったり、臓器提供について詳しく知らない人が多く、臓器提供をする意思を持っている人は全人口の5分の2。無理に臓器提供をする必要はない。だけど世界的にも日本国内でも臓器提供を待っている人はたくさんいる。たしかに、身近に臓器提供を待っている人がいないと臓器提供について考える機会は全くといっていいほどないかもしれない。でも現代の社会において医療が発達し、医者じゃなくても助けられる命がある。逆に私たちがいるからこそ助けられる命なのかもしれない。それは私たちの決断や行動によって決まる。だから私たちは今のうちから家族と話し合い、臓器提供について考えを深めて、ある程度の意思を持っておくべきであると思う。

私は、これからも臓器提供やドナー登録について母だけでなく祖母、叔父、友達とも話し合っていきたいと思う。そして私は、この2年近くドナー登録について考える機会があった。それは、幼馴染の弟が年末まで白血病だったのだ。白血病だった間、私は不安でいっぱいだった。してあげられることはなかった。だから私は今後のためにドナー登録をして、生きているうちから提供できるものはしたいなと思った。

この作文を通して臓器提供やドナー登録について知ってもらいたい。医者じゃなくても助けられる命が増えることを願って。



### 《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

### 《豊島区推進委員会の活動》

“社会を明るくする運動”豊島区推進委員会では、例年7月の強調月間を中心に各団体の協力のもと、様々な趣向を凝らしたPR活動を実施しています。

また、「いのち」「社会を明るくする運動」をテーマに募集した作文コンテストには、豊島区立の小・中学校の児童・生徒の皆さんからたくさんの応募をいただきました。

### 《中央大会「区民のつどい」》

7月9日(日)に池袋西口公園グローバルリングシアターで中央大会「区民のつどい」を実施しました。セレモニー、合唱(すがも児童合唱団・社明合唱団)、作文コンテスト表彰式と推進委員長賞・常任委員長賞の作品発表を行いました。

地区優良賞 受賞作品 地区優良賞は、応募者の中から、学校ごとに1名ずつ選出しています。

学校名	受賞者氏名	作品名
仰高小学校	中溝 まう	「家族の絆でどんなトラブルも乗り越える」
駒込小学校	中根 由莉	思いやりを持つことの大切さ
清和小学校	柳澤 佳音	いのち
西巣鴨小学校	清水 綾乃	「神様から授かった命」
朋有小学校	清水 一伊	「いのち」ってふしぎだな
朝日小学校	高橋 百々花	一回だけのチャンス
池袋本町小学校	山本 幸空	私達の未来のために
池袋第三小学校	村松 輝明	生物と人間の命
池袋小学校	金子 ひかり	よりよい社会にするために
高南小学校	石川 莉世	あいさつから生まれるリズム
目白小学校	久保田 愛菜	助けての一言でいいから
長崎小学校	笠井 心寧	いのちの色の育て方
要小学校	齊藤 愛花	「ポイ捨て」損するのは私達
椎名町小学校	岡田 奏子	より良い社会を作るには
富士見台小学校	中山 希瑛	「あいさつで人とつながろう」
千早小学校	宇野 由彩	社会を明るくする運動
高松小学校	石渡 梨楠	隣人を大切に
さくら小学校	久保田 唯月	誰もが楽しく生活するために

学校名	受賞者氏名	作品名
駒込中学校	青木 響大	人とのつながり
巣鴨北中学校	高島 聖奈	明るい社会のために一人一人ができること
西池袋中学校	熊谷 紀実花	犯罪をなくすためには
千登世橋中学校	成 瀬 心	違いを受け入れて
千川中学校	鶴田 結凜	明るい社会にするために

### “社会を明るくする運動”豊島区推進委員会 (50音順)

警視庁(巣鴨署・池袋署・目白署・巣鴨少年センター)、東京商工会議所豊島支部、東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会、豊島区、豊島区環境衛生協会、豊島区教育委員会、豊島区更生保護女性会、豊島区商店街連合会、豊島区青少年育成委員会連合会、豊島区町会連合会、豊島区BBS会、豊島区保護観察協会、豊島区保護司会、豊島区民生委員児童委員協議会、豊島区立小学校PTA連合会、豊島区立中学校PTA連合会